ほんあづま３月号付録
1977年9月27日第三種郵便物認可　2007年3月10日発行(毎月1回10日発行)通巻第457号

ほんあづま

顕正教祖伝目録

ほんあづま編集室

顕正教祖伝目録

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
1	399 立教165年05月 (2002年)	九十九人まで悪、一人だけ善 櫟本分署跡の保存は天理教信仰の根幹にかかわる	おつとめの復元、拝み祈禱でない信仰 天理王命は教祖の教えではない かんろだいつとめでおたすけ 教祖を陥れた拝み祈禱の神道派 拝み祈禱の心勇組とおつとめ講社の心勇講 明治十九年二月十八日（陰暦正月十五日） 天子も人間、我々百姓も同じ魂 櫟本分署における教祖 九十九人まで悪、一人だけ善 信仰者と転向者	
2	400 立教165年06月 (2002年)	正月二十六日 陰暦正月二十六日のつとめ	高山が埋りた宝を掘り出しに 転輪王は天皇の理想像 つとめの理は進化論、記紀は奇蹟創造説 つとめの急き込み 二十五年の命を縮めて 神とは何か 昭和十一年の『みちのとも』に伝わる存命の理	〈巻末図〉 年譜 明治18年～ 明治21年
3	401 立教165年07月 (2002年)	谷底せり上げのみち 谷底せり上げのつとめとひながた	お道の基本　天皇も人間 知識、常識　良知、良識 婦人会総会と成人カード 三昧田村と庄屋敷村 施してゼロは惨めにはならん 谷底せり上げのつとめ 国々所々のつとめのぢば 谷底せり上げのひながた	〈巻末図〉 ・今までの宗教と谷底迫り上げのみち ・幕末天理市支配体制図

顕正教祖伝目録

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
4	402 立教165年08月 (2002年)	立教 「谷底せり上げのみち」のまとめ （前回の復習） 立　教	いつでも、どこでも、だれでも、南無転輪王 正しく伝えなければならぬ谷底せり上げのつとめ いつでも、どこでも、誰でも、つとめで神の社 ほん何でもない百姓家の者 相続の時と所と人	
5	403 立教165年09月 (2002年)	つとめの理が神 啓示と悟り	谷底せり上げのみち　復習（まとめ） 教祖の真理教育　かんろだいつとめ 教典廃止 （かんろだいつとめと応法の理「泥海古記」） 教祖のいう神とは 日本のかみ つとめで教えた真理が神 おさしづの「理が神」 いろいろある神の表現	
6	404 立教165年10月 (2002年)	教祖の分け隔てしないたすけ おたすけの源泉はつとめ	信じてもいない高山の神に亡ぼされた日本 分け隔てしない神（真理） 分け隔てする今までの神 義（服従）と罪（不服従） 天照一神教 世界宗教でも分け隔てする 昔の真理、今では迷信 地獄・極楽　分け隔て かんろは隔てなく皆に与えらている 旧来の道徳宗教は服従教育 この身体親から私に生き通し 心はころころ入れ変わる 最近の世界事情 よふぼく・信者の心構え　たすけ一条 服従を求めず理解のすすめ やしきで説く教理の掃除	

顕正教祖伝目録

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
7	405 立教165年11月 (2002年)	共生の真理と教祖のひながた 地球人は旧約聖書に崇られている	今までの宗教　仲間作りは敵作り 真理とつとめとひながた 信じてもいない神に亡ぼされた日本 鎮魂（存命の理） ひながたの学び舎か、怨霊封じの社殿か 神にもたれるは服従ではない 共生（かぐらつとめ） 教祖の教えを当然とする二十一世紀	
8	406 立教165年12月 (2002年)	しっかり思案で自由自在 自由自在	軍国主義化の波 体罰と躾、服従と解放 仲裁は時の氏神 旧宗教の治め方（多神教、一神教） 輪廻転生 儒教と仏教とかんろだいつとめ 諸行無常 かんろだいつとめで解放	〈付録〉 『みかぐらうた』（解説付き） 〈巻末図〉 ここはこの世の極楽
9	407 立教166年01月 (2003年)	立教 かんろだいつとめと仏教	神と信仰 原典（経典）と教典 教規改正と教祖伝改訂 敗戦後の復元の提唱 復元の挫折 虚構を除いた教祖伝を急げ 嘘の皮がはがれた一例 天降りと神憑り つとめの理が神 迷信打破のつとめ	

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
10	408 立教166年02月 (2003年)	生い立ち 無理な願いと一すじ心	誕生 教育 結婚 信仰 女中「おかの」の話 吾が子を捧げて命乞いは不可 一すじ心　世界たすけの願い 心と身体の存命の理 たすけ一条の心　十二下り手おどり 拝み祈祷でない「さづけ」 公と私	
11	409 立教166年03月 (2003年)	教祖の実像と虚像 かんろだいつとめの理でたすける	教祖の虚像 偽りのひながた　ほどこし 良民と賤民 家形取り払い 剣の威徳で正気になれ 天理王命の神名流し 天理王命のつとめ 教祖の教えは借物の理から始まった 一億一心、滅私奉公を否定 文久年間のおたすけ	
12	410 立教166年04月 (2003年)	陽気づくめのみち 陽気づくめのみちは 「谷底せり上げ」 みちと世界はうらはら	かんろだいつとめ 教理と教祖伝の歪み 天理教教典のふし 教祖の教え復元のため模本分署を学べ 破邪だけでは勇めない　正論が必要 おつとめ理解が谷底せり上げ おみちと浄土教 かんろだいがだめ押しの教え 神仏を信ずるとは つとめの理がかみ	

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
13	411 立教166年05月 (2003年)	文久年間のたすけ おやしき変遷図の検証	神話は何故作られたか 『稿本天理教教祖伝』の中の文久年間 おつとめの理に基づくたすけ 拝み祈禱でないさづけとつとめ おびや、ほうその許し 教会本部の教祖伝講師たちの検証 こかんの布教許可証 古川文吾という医者はいなかった 辻忠作の「つとめ短い」	〈巻末図〉 おやしき変遷 御入嫁当時
14	412 立教166年06月 (2003年)	誕生祭と存命の理 つとめ場所ふしん	善と悪　戒と律 憲法と法律　教規と教典 今までの宗教とだめの教え 天理人道教育 戒律 天理教は天啓ではない 大和神社事件 針ヶ別所事件	〈付録〉 『天理教の教義と教会の現状』
15	413 立教166年07月 (2003年)	慶応元年大和神社事件 質問に答えて	教義及び史料集成部と御教祖伝史実校訂本 こかんの許可書 秀司と金庫番山中忠七 山中忠七流肥のさづけ それより道の順序　すたってしもうた おつとめ派の間で反目させられた 中山みきのおつげと天啓 迷信と信念 おさづけはきくか？　きかないか？ この世治めるかんろだいの道 存命の理について	

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
16	414 立教166年08月 (2003年)	針ヶ別所事件 教祖はどこに存命か、 ぢばか、教祖殿か	針ヶ別所のたすけ場所 たすけ一条とたすかりたい信仰 御幣と扇 吉田神祇管領と天輪王明神の許し 拝み祈禱と心定めのつとめ 旧来の宗教や道徳 矛盾、不合理を消滅させ真理を増やすつとめ	〈付録〉 『幕末・明治の動きの中で』 〈巻末図〉 教祖の魂　つとめのぢばに存命
17	415 立教166年09月 (2003年)	つとめの理と天輪王明神 おふでさきの「にほん」と 「とうじん」	慶応元年針ヶ別所事件と大和神社事件 こかんの許状 吉田神祇管領について 中山という苗字 天皇神道（天理人道教育）と古神道 こかんと秀司の権威と資格 神職の買官 こかんは教祖の教え、秀司は国家主義 たすける神と支配する神 農家の跡取こかん夫婦と秀司の立場 「にほん」わかり易いつとめの理 拝み祈禱の神とつとめの理が神 心は理解した人に伝わって生きる	〈巻末図〉 こかん名義の許可書と秀司名義の許可書
18	416 立教166年10月 (2003年)	谷底せり上げの道たすけ一条 こかんの生涯 おふでさき全体でやしきの掃除 お道のアーカイブス	教祖のたすけ　谷底せり上げのみちとは たすけ 借物の理 十二下りは心の洗濯場 若き神　名はこかん こかんの死 おふでさき一号、二号 神道教理、仏教の自律、教祖の自立	

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
19	417 立教166年11月 (2003年)	教祖百二十年を 『天理教教典』を廃止して 迎えよう 明治初期の社会情勢と教祖の教え	教典とは応法の理 復元 昭和教典はＧＨＱ対策 教規改正で存在理由を失った『天理教教典』 神名との決別 天理人道 世界たすけ教育としてのつとめ 明治の国是八紘一宇 三代・四代真柱共同宣言 本来のお道　つとめの理が神 天理人道教育 やしきの掃除（こかんと秀司） 第二次大和神社（小教院）事件 証拠守 明治政府の宗教弾圧	
20	418 立教166年12月 (2003年)	山村御殿のふし 明治初年の宗教政策	つとめと高山の説教 証拠守 肇国の精神（国生み、神勅、八紘一宇） 天理人道は治国の大本 進化か成人か、個性か共通性か おつとめがこの道の教義 高い山から往還の道 戸長仲山秀司 わがみうらみ（神罰ではない）	
21	419 立教167年01月 (2004年)	中教院（天理人道教育）不参加 出直しの教理 つとめの理と応法の理	中教院に非協力表明 さづけ 月日の社　赤衣着用 月日手入れ（神罰ではない） かんろだいつとめのぢば定め（成人の発生地） こかんの死 教祖の死生観 男児出生	〈付録〉 『陽気ぐらしのひながた』

顕正教祖伝目録

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
22	420 立教167年02月 (2004年)	名はたまへ 天理教の死生観と出直し	出直しの教理 おさしづの中 かんろだいは科学的教材 人生の目的 死生観確立の旬 中山正善の弁明 中山みきの教えと教規改正 霊魂不滅型迷信とだめの教え 諸行無常 わが身うらみ　神仏の罰ではない	<付録> ”身分差と争い”に対してお示し下された『教祖のひながた』（復刻版）
23	421 立教167年03月 (2004年)	「皆月日より貸物なるぞ」 かんろだいつとめは 迷信打破の教え	仏教は輪廻転生の迷信打破 仏教の歴史 かんろだいで合理的にわかり易く教えた 生き物共通の本性　かぐらつとめ 成人とは 世界の三大迷信	
24	422 立教167年04月 (2004年)	『神・月日及びをや』について 「転輪王講社」 前生因縁　みちと世界	神とは親、裁くものではない 生物は皆真理（親心）にそって生きている 埋（おぼ）りた宝を掘り出しに 神と理 転輪王講社の実態 宗教諸相「多神教」 　一神教 　輪廻転生 　仏教 ヒミコの使者たちは中国で何を見たか	

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
25	423 立教167年05月 (2004年)	究極（だめ）の教えとは この世の真理 よろづたすけのつとめ	おつとめはお道の主体 霊魂不滅型三大迷信 『天理教教典』は明治も昭和も応法の理 死後霊魂なし　迷信打破の仏教 神・月日及びをや 「最後の御苦労」「櫟本分署跡」について 無意識の層構造 十二下り手をどりのつとめ 始め出しのぢば三段階	〈巻末図〉 命の大綱と無意識の層構造
番外	424 立教167年06月 (2004年)	かんろだいつとめと大学院 神・月日及びをや かんろだいつとめと河合隼雄の 心理学	正善と河合隼雄と修養科 畏友山本利雄を悼む 究極（だめ）の教え	〈巻末図〉 旧宗教の比較
26	425 立教167年07月 (2004年)	拝み祈祷でない「さづけ」 つとめとさづけで教えた教理	秀司営業の宿屋と蒸気風呂 転輪王講社の性格 つとめとさづけ 少講義日暮宥貞と修験道 開筵式 二つの転輪王マンダラ 転輪王講社で出したお札 ほこり	〈付録〉 『教祖の教　かんろだいつとめ』
27	426 立教167年08月 (2004年)	十人の中に三人片腕わ （やしきの掃除、そばなもの） 復元三役揃い踏み	宿屋、風呂、営業は秀司 天輪王明神、転輪王講社は秀司、山澤 秀司の死　わがみうらみ かんろだいつとめを妨げたまつゑと山澤 山澤の泥海古記とまつゑの死 教祖に忠実　本部では異端 天啓拒否の教規改正 正善真柱の死と本部改革挫折 天理教教典を廃止「かんろだいつとめ」へ つとめの理で三信条復活	

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
28	427 立教167年09月 (2004年)	おつとめ （かんろだいつとめ）の第一義は	三信条の第一　神一条 今までなかったかんろだいつとめの教 かんろだい 世界一れつ兄弟 私の生涯、数十億年の陽気づくめの生涯 十二下りのつとめでほこりを払う たすける心「親心」それがひのきしん 塩になって、塩のように、はたらけ 一手一つは調和（共生）の理 数十億年(私)の人生を陽気ゆさんの生涯に仕上げる	〈巻末図〉 比較宗教学
29	428 立教167年10月 (2004年)	別席試案（二） 「つとめとさづけ　その一」	今までにない教 教祖の教でない「天理王命のつとめ」 やしきの掃除　そばな者の悪 善悪分けるかんろだいつとめ おつとめとは 理想を表したかぐらつとめ この世は神の身体（平等） 陽気世界はつとめのぢばから始まる 十二下り手おどりのつとめ	〈巻末図〉 霊肉一元論と霊肉二元論の比較
30	429 立教167年11月 (2004年)	別席試案（三） 「つとめとさづけ　その二」	十二下りの教え方の区分 戦時中でもつけた応法の理のけじめ つとめの入門式　肥のさづけ 三・九、四・十下り目で「つとめの理が神」 借物の理・御利益信心でない「転輪王のさづけ」 五・十一下り目で「ぢばの理つくるひのきしん」 十二下り修了で「かんろだいのさづけ」 かぐらつとめ かんろだい 能力は万分の一でも　ひながたは丸ごと通れ	

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
31	430 立教167年12月 (2004年)	別席試案（四） つとめの理が神	たすけでも拝み祈祷で行くでなし つとめ場所はこかんの許可で 上の人は神（多神教から一神教へ） 中山正善二代真柱の復元宣言 宗教博物館的昭和の「天理教教典」 天啓を否定した天理教教規改正 教会の現状 つとめ一条 たすけ一条 真理と一体化するかぐらつとめ	
32	431 立教168年01月 (2005年)	別席試案（五） つとめで教祖と一体化	神道天理教会は天理人道教育 今までにない事ばかり、つとめの理 月日がつとめで入込んでめいめいの社 風の変ったもの（神道）ひながたとは言わん 「やしきの掃除」か　聖家族か 善と悪　生きているものはみんな善 二つの伝承　こかんさんの生涯	〈巻末図〉 こかん名義の許可書 ・秀司名義の許可書
33	432 立教168年02月 (2005年)	別席試案（六） 拝み祈禱の弊害	天皇制軍国主義の天理人道教育 思案して　心定めて（行為） 教祖の元の理は心の問題、人間は心と身体 かんろだい　陽気づくめ世界の象徴 十下りの本で十二下りを教えた教祖の直弟子 心得違いは出直しや	
34	433 立教168年03月 (2005年)	別席試案（七） 倒し合い文化から働く楽しみ文化	かぐら面 たすけ一条 神と言っても 天然自然の理 天理教という名称	

顕正教祖伝目録

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
35	434 立教168年04月 (2005年)	別席試案（八） 身心調和の理「かぐらつとめ」	続おふでさきの宛名 かぐらつとめは身心調和の理 親は選べないが、理の親は選べ たすけ場所か　たすかり場所か ひながたは教祖の教のすばらしさ 十二下りは先入観是正 かぐらつとめは陽気な世のもと 高山の説教と真実の神の話 かんろだいのかぐらつとめと天理王命のつとめ	
36	435 立教168年05月 (2005年)	別席試案（九） 借物の理が分からねば どうもならん	おさづけ　身は借物　心一つ我がの理 なさけない、人をたすける心ないので 転輪王の借物の理 公地公民の借物　大嘗祭 みちと世界　つとめと教典 十二下りは悪いくせ（ほこり）とり 成人とは かんろだい かんろだいに対する弾圧 立教の三大因縁は神道教理 目標（めどう）は、かんろだいか八咫鏡か	〈付録〉 『かんろだいつとめと天理王命のつとめ』
37	436 立教168年06月 (2005年)	「天の理と天理人道」	教育勅語は天理人道教育 天の理はかんろだいつとめの理 一の神と道具衆の神名 神と神名　神の性別 これで証拠の大神宮	〈巻末〉 神勅 橿原奠都の詔

顕正教祖伝目録

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
38	437 立教168年07月 (2005年)	**天の理と天理人道（二）** 心しらべのつとめ	拝み祈禱でないさづけ おさづけの定型パターン 教理書の虚構を崩す「・・・と思われる」 天降りと神憑り 心しらべのつとめ 枕元でつとめたおてふり 教祖は神の社　よふぼくはめいめいの社 たすけ合い人間を自覚するつとめ 陽気づくめに働くと陽気ぐらし 高山の説教と真実の神の話	
39	438 立教168年08月 (2005年)	**天の理と天理人道（三）** 天の理と天理人道小史　案 拝み祈禱とつとめとさづけ	天皇公認神道天理教 教祖四十年祭　二代真柱管長就任 さづけ、仏教の授戒、お道の授訓 二つの借物の理	<付録> 『靖國神社』 (No390再録)
40	439 立教168年09月 (2005年)	**天の理と天理人道（四）** 天の理と天理人道小史（続）	明治から天皇制軍国主義教育 証拠守り かぐらつとめの実状と信仰信念 天理ほんみち 戦争に伴う思想弾圧 戦後の復元	
41	440 立教168年10月 (2005年)	つとめの理が神	天理王命の神名 神の子が神に成人するつとめ おつとめの順序 教祖の立場 神憑りと天降り 世界並で言う神（天神地祇） 教祖の場合（陽気つとめの理が神） 教祖以前の神とは 「信仰」解放教か、服従教か 利他は犠牲ではない 谷底せり上げのみち	

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
42	441 立教168年11月 (2005年)	つとめの修理はひながたの顕彰で	お手ふりと印相 解放教か　服従教か つとめの理が神 つとめる順序 甘露台を囲んで甘露提世界をかたどる ひながたなおせば、どうもならん 軍国主義神道で歪められたひながた 教祖より天皇が偉い山澤神道 正当・異端のコペルニクス的転回	〈巻末〉 「つとめ復元の旬」その一
43	442 立教168年12月 (2005年)	天理教学の確立が先決	神とは つとめの入口さづけ 真説教祖伝 つとめの確認三役揃い踏み つとめの理解を深めよ 教祖が教えたつとめに復元 真実を見て役割をする 補足　おてふりと印相	
44	443 立教169年01月 (2006年)	みちの理と世界の理 ＜教祖百二十年祭記念＞	たすけ合いの陽気づくの世界 自由、たすけ合い、平等 皇道 陽気づくめ世界のたすけ一条の道のつとめの理 陽気づくめ、たすけ一条、つとめの理が神 神のやしろ かんろだいつとめと天理王命のかぐら 教祖二十年祭に何故、かぐらを禁止したか	〈巻末〉 「つとめ復元の旬」二

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
45	444 立教169年02月 (2006年)	「天理王命のつとめ」から 「かんろだいのかぐら」へ 復元三度目の正直	偽り多き、天理王命のつとめ 「ちょとはなし」のつとめ 神の教でも、思案しなさい 生き物は皆かけがえのない一の道具 「ちょとはなし」と朝夕神拝祝詞 輪廻転生（差別の根元） 諸行無常 おみち 世界・道・理 事情・身上は道の花 十人の中に三人 第二次復元宣言 十柱の神様やめて、つとめの理	〈巻末〉 最高裁判決出る 新聞記事
46	445 立教169年03月 (2006年)	まことの信仰とほこりの風習	教祖の教ではなかった「天理王命のつとめ」 天輪王明神とかぐらつとめ 本部と言っても 「かんろだい」のかぐらつとめ 「ちょとはなし」は基本教理の解説 真理で心を切りつなぎするかんろだいつとめ 相反する天理王命のつとめとかんろだいのつとめ 今までの教は倒し合い世界の教 神を感じる時は、調和の時か、不調和の時か 死後の霊魂と存命の理 事情・身上諭すは道の先達 かぐらつとめの復元	
47	446 立教169年04月 (2006年)	「復元」教祖の教に帰る 幸運なおつとめ人間、私	「天理王命のつとめ」廃止の予告 教義書の性格 復元とは、教祖の教を残して、他を除く事 つとめ場所と王法ノ理神道 つとめの理が神 正善二代真柱の教義裁定	

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
48	447 立教169年05月 (2006年)	だめの教　かんろだいつとめ	三信条 霊魂不滅と魂の因縁　霊肉二元論 霊肉一元論 天降りと神憑り かみ＝尊いもの＝調和しているもの 神、月日及びをや つとめの理が神、教義書 八咫鏡は八紘一宇、かんろだいは陽気づくめ かんろだいつとめで真実のたすけを	〈付録〉 『かんろだいのかぐらつとめを行なう旬』 〈巻末〉 駄目押し(究極)の教と言われる理由
49	448 立教169年06月 (2006年)	たすける神と支配する神	教祖百年祭前の橋本と八島の提案 かんろだいつとめと天理王命のつとめ かんろだいつとめ派の思いが凝った保存会 世界たすける願いと世界支配の欲望	
50	449 立教169年07月 (2006年)	理と神 (天然自然の理と 超自然的支配神) 神の子が神に成人するつとめ	お願いつとめ（本願と欲望） 道と世界 守屋神社の老母の言 転輪王の借物の理と天理王命の借物の理 みちのはじめの三大因縁 幻聴 巻頭言に関連して	
51	450 立教169年08月 (2006年)	陽気づくめとは善一元論	天理人道	〈巻末〉 転輪王のつとめと天理王命のつとめの比較

顕正教祖伝目録

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
52	451 立教169年09月 (2006年)	「ほこりは種にならん」 (善一元論の準備)	ＧＨＱ教典 健児団 御分家中山為信の立場 二代真柱とマッカーサー司令部 善一元論の準備 修養科改革 天理文化建設 善一元論	
番外	452 立教169年10月 (2006年)	教祖の教　かんろだいつとめ	つとめ復元の旬 教祖御在世当時から各地で 御神楽面のお許し　教祖から おてふりもかんろだいを囲んで 明治十六年日照りの時に 明治二十年正月二十六日のおつとめ 二つめどう 教会本部でも おさしづにも 「つとめは、第一義は」	〈巻末〉 天の理と天理人道（年譜）
番外	453 立教169年11月 (2006年)	元始まりの話と旧約聖書の男と女 こかん様関連事項	イスラムとキリスト教 聖戦（ジハード） 信仰とは 教祖の弟子の学びの道 旧約聖書 教祖の教　一元論 かんろだいはカボチャのめしべ 世界並み おばさん　飯降政甚談 怒られるから行かぬ　忍坂・増田喜三次	〈付録〉 『借物の理』 （転輪王経）

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
53	454 立教169年12月 (2006年)	転輪王と天理王命 かんろだいつとめの復元 (三信条、お道の人間の約束ごと)	教祖の借物の理（南無転輪王） 天理王命の借物の理 神一条の信念 つとめ人衆の役割名 かんろだいつとめの性格 ぬくみ・すいき つなぎ・つっぱり 水気上げ下げ・引き伸ばし 息吹き分け・切る カボチャとミミズに例えて たすけ合うため、たすけ合いによって生まれた 三信条の第二は、ひのきしんの徹底 君主化する親と価を求めぬ親心 三信条の第三は、一手一つの和	
54	455 立教170年01月 (2007年)	神とはつとめの理 (三信条のとらえなおし)	神一条の信念 南無転輪王と南無天理王命 ひのきしんの徹底　一手一つの和	
55	456 立教170年02月 (2007年)	人をたすける心が真の誠 (進歩する常識)	おみちの常識　生き続ける心と体 昭和教典　敗戦当時の常識 常識（通常・異常・正常） 年祭を終えて 慶応三年から敗戦まで重ねた嘘 復元胎動と弾圧 嘘のはぎ取り 現状と理想に向かって	〈巻末〉 講義黒板より

顕正教祖伝目録

回数	通巻号 発行年月日	タイトル	見出し	備考
56	457 立教170年03月 (2007年)	神かな、月日かな、をやだな	「かみ」かな、誤解されている言葉 神勅・八紘一宇で天理人道 「月日」かな、天然自然の理 「をや」性を別けてたすけ合い人間に成人させた 人をたすける心構えで勇める 教祖存命の理	

顕正教祖伝目録

編集　ほんあづま編集室
発行日　立教170（2007）年2月25日
発行者　櫟本分署跡保存会
代表　八島英雄
〒632－0004　天理市櫟本町3071
TEL 0743－65－4902